神奈川県重症心身障害児（者）を守る会

神奈川県川崎市麻生区千代ケ丘
2-11-10-103 谷口方/

第 29 号　2021/9/10 日発行

江の島海岸より富士山を望む

ご挨拶

会員の皆様には、日頃より守る会の活動にご理解ご支援を頂き厚くお礼申し上げます。

一昨年の暮れごろより新型コロナウイルス感染症が急速な勢いで世界中に蔓延していき、想像すらしたことのない世界が広がっています。

今は第５波の真っただ中、ワクチン接種、病院の逼迫が言われるなど日々不安の中にいます。それでもオリンピックもパラリンピックも開催されました。そして季節は季節どおりに過ぎて行き、自分が時間に置いてけぼりになっているように感じています。

ご挨拶が遅くなりました、今年度より会長に就任いたしました谷口久美でございます。中村前会長の後を引き継ぎ全力を傾けて新体制で取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。役員会も思うように開催できずメールを活用し意見を出し合うなど工夫をしています。書面総会が続き皆様にお目に掛かれないので、役員の自己紹介を載せました。少しでも身近に感じて頂ければ嬉しいです。

会報発行にあたり心がけた事は、会員の皆様との繋がりを深める会報とともに多くの方々に守る会の活動を知って頂きたいと思いました。

会員さんどうしの情報交換の場として≪会員の広場≫というコーナーを設け、次号以降載せていこうと思います。皆様からのご意見、エピソードなどの投稿を歓迎いたします。

またその時々に合わせた特集記事を組んでいきたいと思います。今回の特集記事は津久井やまゆり園についてです。神奈川県民の障害児者の家族としては決して忘れてはいけないことと思い特集記事にいたしました。

また　新型コロナ感染症について、重心協会長の大川先生にご寄稿いただきました。コロナ対策でお忙しいところありがとうございました。

我々の子供を日々看護介護してくださる多くの職員さん達に、常に感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきましょう。

神奈川県重症心身障害児（者）を守る会　会長　谷口久美

神奈川の重症心身障害児者施設と新型コロナウイルス感染症

神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会（県重心協議会）
会長　大川俊哉（太陽の門福祉医療センター）

はじめまして県重心協議会の会長大川と申します。
県重心協議会は県内の重症心身障害児者施設（入所 12 施設と通所 13 施設）の集まりです。会則には「重症心身障害者に関わる施設のサービスの充実と施設相互間の連携を図り、重症心身障害者の生活の向上、及びその御家族の支援に寄与することを目的とする」を掲げています。皆様には各地域の入所通所施設をご利用ご支援いただきありがとうございます。

昨年より新型コロナ感染が広がり各施設はすぐに厳重な対応を行いました。重症心身障害児者が生活する場である施設ではクラスターが発生すると急速に拡大します。基礎疾患のある方は重症化しやすいため感染を絶対に防がねばなりません。県外の入所施設でのクラスター発生の状況を聞くと入所者職員ともに大変な苦労をされていました。

新型コロナ感染は確実な治療法はなく予防が第一です。各施設では密閉、密集、密接の三密回避とマスク、手洗い、アルコール消毒を徹底しました。入所施設では面会制限もおこない、通所施設ではソーシャルディスタンスの確保に努めました。訪問介護でもいろいろな制限がかかってしまいました。通常とは違う生活に入所者、利用者の皆様には大変なストレスがかかっています。ストレスを少しでも和らげるために安全を第一に考えながら各種行事はできるだけ続けてきました。

2021 年 7 月末現在、皆様のご協力を得まして各施設では大きなクラスターの発生なくやってこられました。大変ありがとうございます。

ここにきて神奈川県でも 1 日感染者が 1000 人を超え緊急事態宣言がまた出されました。ワクチン接種が始まりましたがまだ全体には行き渡っていません。感染力の強い変異株が広がりワクチン接種していても安心はできません。感染収束がいつになるかわかりません。施設の職員も 1 年以上の緊張の連続にどうにか耐えている状況です。サービス低下がおきないよう頑張っていきます。しばらくは施設利用の皆様にはご不便をおかけすると思いますがこれからも各施設をよろしくお願い申し上げます。

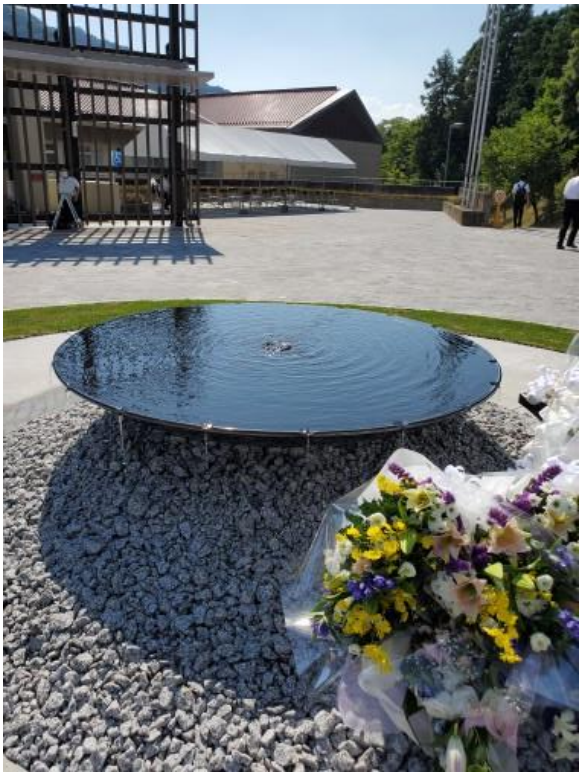
県内重症心身障害児者入所施設

神奈川県立こども医療センター	横浜市南区六ッ川 2-138-4
鎌倉療育医療センター　小さき花の園	鎌倉市腰越 1-2-1
独立行政法人国立病院機構　神奈川病院	秦野市落合 666-1
七沢療育園	厚木市七沢 516
横浜療育医療センター	横浜市旭区市沢町 557-2
相模原療育園	相模原市南区若松 1-21-9
太陽の門医療センター	小田原市風祭 563
重症児・者福祉医療施設　ソレイユ川崎	川崎市麻生区細山 1203
重症心身障害児(者)施設　サルビア	横浜市鶴見区下末吉 3-6-1
ワゲン療育病院長竹	相模原市緑区長竹 494-1
ライフゆう	横須賀市湘南国際村 1-4-6
横浜医療福祉センター　港南	横浜市港南区港南台 4-6-20

津久井やまゆり園　令和３年７月20日追悼式

2016年7月26日の早朝に起きた、悲惨な事件は決して忘れてはいけない事として、伝え続けていきたいと思っています。
7月20日に「令和3年度津久井やまゆり園事件追悼式」が再建された千木良でありました。鎮魂のモニュメントに献花に伺いました。
暑い日で空は青く太陽がまぶしく照り付けていました。その場所は静かにありました。丸い大きな石に水が湧き出ていて「かながわ憲章」が透けて見えました。花を手向けて少し先に目をやると背の高い門扉があり、近づくことにためらいを感じました。電車を乗り継いで行ったのでとても遠くに来たように感じました。
亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、新しい施設で暮らす方たちが、心豊かに過ごせることを願います。（谷口記）

目に飛び込んできたのは、正門近くに設けられた慰霊碑「鎮魂のモニュメント」でした。
円形の中心からこんこんと水が湧き出て流れ落ちていました。
水鏡の中からは、かながわ憲章が浮かび上がり、
事件を風化させてはいけないと静かに訴えていました。
焼けつくような日差しの中で思いがけずたどりついたオアシスのように
心身を癒し新しい一歩を踏み出す気力を頂きました。　（高山記）



平成28年7月26日テレビのニュースに釘付けだった事を思い出しました。痛ましい、事件から5年が経ち現地には大勢の献花に訪れた人がいらっしゃいました。
献花台には19名の名前が、、、えっ、と7名の実名が、遺族の意向と知り複雑な心境に、胸がつまりました。
亡くなられた方々に菊の花を皆さんの冥福を祈り手向けました。
障害児者の偏見や差別が本当に無くなる社会が訪れる事を祈るばかりです。（南里記）

津久井やまゆり園事件発生から 5 年経ち

「命の尊厳は本人以外決定できるものではない」ことを改めて考えたい

相談役　中村　紀夫

私が事件の一報を知ったのは、忘れもしない 2016 年 7 月 26 日早朝 5 時ごろ、県・守る会 50 周年記念誌の編集作業をしていた時、ふと手にしたスマホに「相模原の施設に暴漢侵入、19 名が心肺停止」と速報されていたニュースを見てである。

それからの 2 週間ほどは、会としての声明文を出したり、やまゆり園を献花に訪れたり、記者会見で「障害者の命を守る」ことをアピールしたり、あわただしく過ぎたが、そうしている間にも、日々明らかにされる事件の異様さ、残虐さに打ちのめされたのを昨日のことのように覚えている。

１．事件が、19 人の殺人事件、26 人の傷害事件であることを忘れてはならない

犯人植松聖は、入所者に一人一人話しかけ、意思疎通が難しいと思われた被害者を一人について何度も何度もナイフを刺して殺していったという。
無抵抗な人を刃物で殺す、命を落とした 19 人の他に 26 人にも切りつけ重い怪我を負わせている。こうして書くこともおぞましい。

植松がなぜ犯行を犯したのか、さまざまな解釈を言う人がいる。
また、哲学者ニーチェの思想に近いという学者だの、講演会で植松の事を「さん」付けで心理分析してみせる心理学者もいる（偶々その講演会を聴いた守る会会員の一人は、あまりの事に途中気持ちが悪くなって退席したそうだが）。

植松は美醜に敏感として、彼が描いた絵を一面記事に掲載した新聞さえある。
犯人についてどのような解釈をしようと勝手だが、犯した犯行の残忍さ、非人間性から目を背けてはならない。
言うまでもなく殺された方たちは、障害者である前に「人間」なのだ。

19 人の被害者を障害者というくくり方にすることによって、無抵抗の「人間」ひとりひとりを 19 回殺したという非道性から少しでも目をそらさせることがあれば、私たちはそれを許してはならない。

２．犯人が死刑という結審で事件は終わったか

「汝殺すなかれ」が人の守るべき最後の倫理とする考えから死刑廃止論を言う方もいるが、今回の事件では、終身刑がない以上死刑判決以外あり得ない。
本当は、終身拘束（終身刑）の中で罪と向き合ってもらう方が、本人にとってより厳しい罰とも思うのだが。犯人に罪と向き合ってもらいたいと思うと同時に、私たちもこの事件から逃げてはいけない。特に、事件から得た教訓をこれからに生かさなければ、犠牲になった方々も浮かばれない。事件が起きた遠因を振り返る時に、果たして当時の津久井やまゆり園が健全に運営されていたのか改めて検証することも必要だろう。

犯人植松が障害者に対し否定的な考えを持つに至った一つの要因として、園の雰囲気に問題は無かったのだろうか。ここまでひどいことが起きる前に、ちょっとした虐待行為とか、スタッフと入所者、あるいはスタッフ同士の間のトラブルは無かったのか。
スタッフと園全体が、明るく前向きな風土を保てていれば、植松のような異分子を生み出すことも無かったかもしれないと思うのは楽観的過ぎるだろうか。
事件のあまりの悲惨さに、私たちはついつい植松の特異性にばかり目が行くが、5年経った今、現場となった園の風土が当時どうだったかを検証することが、これからの有益な策に繋がると考える。

また、私たちの立場でできることで言えば、家族会はうまく機能していたのか、家族が入所者の生活に関心を持っていたか、可能な限り面会など時間をさくようにしていたかなども改めて問う必要がある。

この事件を裁判の結審で終わらせることなく、何故事件が起きてしまったのかを再度検証し、その反省に立ってこれからの障害者の療育環境改善に取り組んでいくことが、亡くなられた方々へのせめてもの手向けになるだろう。

３．この5年間を振り返って

事件が起きた当初と裁判が行われている間は、世間の耳目を集めたが、特にこの1年半は新型コロナ禍もあり、世間の話題としては遠のいたようにも思える。

その中にあって、この7月4日には完全に新しく立て直された園の開所式があり、8月1日には希望者が入所する。

また7月20日には犠牲者の追悼式典が開かれ、そこで慰霊塔「鎮魂のモニュメント」が披露されるという。

行政、特に神奈川県がこの5年間本当によく事件後のフォローをしてくださった一つの結実点ともいえるだろう。
関係者の皆さまに改めて感謝したい。

私たち守る会としては、当初の声明文発表や記者会見などを通じて社会に訴える活動を行ったほか、昨年地元紙に掲載された犯人を持ち上げるかのような記事に対し厳重抗議をするなど重い障害者に対する理解を訴え続ける活動をしてきたが、先ほど述べた事件からの教訓を生かす活動は必ずしも十分とは言えない。
先ずは、コロナ禍のため満足に会合も開けなかった家族会の再建、守る会活動を通じて重心施設の療育環境改善など身近なことから取り組んでいきたい。

《施設紹介》

重症児・者の入所施設、通所施設、グループホーム、サポート事業所などの取組や行事について情報を共有し重症児・者の福祉の向上に参考にさせていただきたいと思い、会員ほか皆様からの紹介文を掲載します。

―コロナ禍でも大切にしていること―

七沢療育園はコロナ禍に於ても皆さんお元気で過ごされています！

面会禁止が続いていますので面会(ガラス越し)でのお話や七沢療育園便りを下に紹介させていただきます。

今年もコロナに負けず園の ４ 大行事を楽しみにして日頃から日中活動を通し元気に楽しく生活されています。

３ 月のお花見会では「七沢ハウステンボス」をテーマに現地のお花いっぱいに合わせたカラフルなお花飾りと本場長崎のカステラを華やかに創作していただき楽しまれました。

３ 月で去られます職員のご挨拶も行なわれたとのことで、保護者としても感謝しお礼を述べたいと思います。

７ 月は七夕祭り、願い事を沢山書いた短冊をみんなで準備して楽しまれました。

その他にも日頃は日中活動のほか園庭での日光浴や療育園周辺の緑豊かな環境での散歩、中でも半日掛けてのドライブ外出は最高の楽しみのようです。

療育園のエントランスは園生はじめ職員の皆様が明るく楽しくコロナに負けないようにとの応援メッセージでいっぱいです。

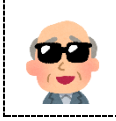
療育園の職員と保護者の方々のご協力によりいつも綺麗にされていますので保護者も楽しませていただいています。

療育園は ４ 月から新体制になりました。園長は渡辺偉二様、副園長は吉橋学様と吉川匡様の２名が就任されました。日頃からご相談などでお世話になります課長に樋渡暁様、ご支援をしていただきます職員には ８ 名の方々が新しく就任されました。

安心して面会できるようになることを皆さんが楽しみにされています。

記：北川

役員紹介

	ソレイユ川崎の谷口久美です 川崎分会立ち上げから約 18 年　人生 100 年!!　私は 50 代に逆走したい！趣味はボーっとすること。愛読書は「赤毛のアン」です。
	ワゲン療育病院長竹の高山幸子です 寄る年波とともに足腰が弱ってきました。　大好きな「りんどう峠」を歌いながら踊って体力づくりに励んでいます。　皆さんご一緒にハイのハイのハ～イ♫
	七沢療育園の北川泉です 40 歳で青梅マラソンや市民マラソンに参加して完走の楽しさを感じ、高齢の体力維持のため日頃はジョギングを行っています。
	ソレイユ川崎の佐藤泰彦です 基礎疾患持ちの後期高齢者でして、コロナ禍では苦労しています。今はできませんが趣味はカラオケで、だみ声張りあげて歌うことです。
	小さき花の園の南里正枝です 娘が 49 歳、背中におぶって守る会に参加しました。　何年か？私歳で数えられません。先輩後輩に支えられてやっと立っていられます。でも健康のためフラダンスは続けまーす。
	横浜療育医療センターの畠山憲子です 変化の日々　何かあると空を見上げます　真っ青な空！　虹がかかった空！　星が輝く空！私の元気のもとです
	アドバイザーの渡部和哉です 守る会ではホームページを担当しています　安心ノート活用していますか？今後ともよろしくお願いいたします。
	横浜療育医療センターの中川博明です ゴルフ大好き人間です。下手な横好きですがとりあえず体を動かすことが大好きです。後は先輩の方々が築いた守る会を盛り上げていけたらと思います
	神奈川病院の小松薫です 無芸大食・人畜無害でも、お陰様で元気なので趣味は献血？！　500 回までもう少しです。でもいつまで続けられるやら。
	ソレイユ川崎の岡村弘美です 蟹座　A 型。皆様の熱意のおかげで 10 年余り　趣味のフラダンスは 15 年。長いばかりで上達なし。コロナ禍の中で写経を始めました。継続なるか？
	相模原療育園の中鉢啓子です ステイホームのなか、縫ったマスクが 300 枚を超えました　iPhone でラインやお喋り。令和に生きる昭和の母で頑張っています。
	太陽の門の平岡法子です いつの間にか、わからないまま背骨がひどく曲がってしまって立位・歩行時不安定で日々悩んでいます。素晴らしい神の手はないものか？
	ソレイユ川崎の深田キミ子です コロナ禍で外出もままならない日々。散歩を始めました。身近な自然に癒されています。我が子と一緒に外気を肌で感じることができる日常に戻りますように。
	川崎分会の山崎です。 65 を過ぎたら仕事は引退と思っていましたが、現役のまま老体に鞭を打って働いています。休みの日はひたすらゴロゴロして体力を温存しています。

編集後記

今年度より谷口会長が選出され、新たな役員体制がスタートしました。これまでの体制を中心になって支えてくださった前中村会長をはじめ、多くの諸先輩に心から感謝の気持ちを送ります。また、新たな体制を支えてくださる役員の皆様、どうぞよろしくお願いします。

「守る会」を支え続けてくれた諸先輩の中には先の大戦を経験された方もおりました。
混乱した終戦直後から苦労を重ね、生まれた我が子にも重い障害があり、その子に生まれる価値が認められなかった社会に敢然と立ち向かいながら、「もっとも弱い者を一人ももれなく守る」と世に理解を求め続けた運動は半世紀が過ぎました。
日本の福祉は当時に比べると大きく進化してはいますが、「津久井やまゆり園事件」のように弱い者の命が軽んじられる傾向は、いまだに社会意識として存在することは否定できません。
もともと生物の特性として弱いものを駆逐していく事は否定が出来ない現実だと思いますが、人間が“競争原理”の元、本気で動いたら争いは凄惨を極め、人類は破滅の危機に陥っていたかもしれません。それを理解しているからこそ“共存する社会”を目指しているだと思います。ただ、その中に能力の低い者や障害のある者は含まれないというのが現代の「差別的社会意識」だと思います。

この差別的意識が生まれもって私たちの中にある以上、根本から差別意識をなくすことはできません。
私達の出来る事は差別を禁止する啓蒙活動（従来の守る会運動）、差別を禁止する法律（立法）、教育だと思います。大切なことは私たち自身も含め、常に個人の尊厳と命の尊さをより理解することだと思います。

コロナ禍の中、東京オリンピックが開催されました。今大会の 3 つの基本コンセプトの中に「*人種、性別、性的指向、宗教、障がいの有無など、世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会を育むきっかけとなるような大会を目指す*」とあります。競争という中に多様性と調和を認識するのは少し難しいのかな？と思ったりしています。自国の選手を応援するのは当たり前ですが、やはり結果が求められるのが競技（競争）です。マスコミも連日、金が何個取れたと競って報道する事に批判するつもりもありませんが、せめて共生社会を育むきっかけとなるような報道や特集をもっと多くしてほしかったと感じています。

この原稿を記している時はコロナの感染拡大第 5 波の直中にあり、今までで最も感染者数が爆発的に増えています。今はただ、速やかにワクチン接種が進み感染の鎮静化を願うばかりです。

編集委員：山崎

神奈川県重症心身障害児（者）を守る会　ホームページ
http://kanagawa-mamorukai.org

ホームページの QR コードです